あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.204　2016.5.1

四賀化石館に新たに2つの「松本のたから」

アロデスムス頭骨の化石

平成 28 年 3 月 23 日に
「アロデスムス頭骨の化石」と「大型鰭脚類の陰茎骨化石」が
松本市特別天然記念物に指定されました。
四賀化石館でぜひご覧ください。

※アロデスムスは約 1300 万年前頃に生息していた大型海生哺乳類で、鰭脚類（アシカやセイウチの仲間）と共通の祖先から進化し、約 1000 万年前に絶滅したとされています。

大型鰭脚類の陰茎骨化石

もくじ

誌上博物館 ◇「松本藩領ミュージアム」を考える……2
博物館TOPICS ◇ ひとの動き……4
ガイドコーナー ◇ はんてんぼく……4

美しく生きる。
健康寿命延伸都市・松本

「松本藩領ミュージアム」を考える

はじめに

現在、松本市立博物館では塩尻地域から大北地域までのエリアにある博物館が連携して活動する「松本藩領ミュージアム」事業を行っています。ここでは、平成 26 年度から 27 年度にかけて実施した松本藩領ミュージアム事業にふれながら、この事業のあらましと今後の在り方を述べてみます。

1　松本藩領ミュージアムへ

松本市立博物館といえば松本市域、A 市の博物館といえば A 市域、B 市の博物館といえば B 市域がそれぞれの活動対象領域となります。それは、それぞれの博物館が市民・住民を対象とする生涯学習の場であるので、当然のことです。しかし、博物館が活動対象とする社会、いわゆる博物館地域社会は、必ずしも現行の行政区画に限定されません。私たちの身の回りの伝承された生活文化をみると、松本藩領の風土のなかで培われたと思われるものがいくつかあります。たとえば、松本の冬の風物詩として知られるあめ市があります。このあめ市が開かれるのは、信州−長野県では松本藩領内だけで、大町市や安曇野市、松本市というように行政区画を越えて分布しています。こうしたことにふれてみると、塩尻地域から大北地域までの松本藩領を屋根のない博物館ととらえフィールドワークすることで、私たちは地域の成り立ちや歩みをより深く知ることができるのではないでしょうか。

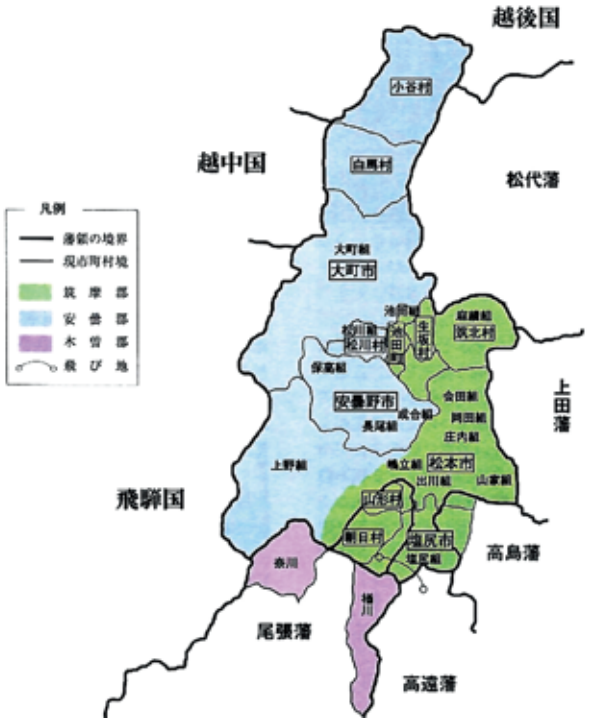


図1　松本藩領概略図（元和3年戸田氏7万石時）

この松本藩領ミュージアム事業は、江戸時代の松本藩領エリアを対象に、歴史的につながりが深く、一つの文化圏でもある南の塩尻地域から北の大北地域までの広域博物館が相互連携して事業を展開するものです。それぞれの博物館を訪れて、館内の資料はもとより、フィールドの資源にふれながら、古い時代からつながりが深く、一つの文化圏をつくっているこの地域の歩みや文化の一端を学ぶ構想です。これは住民の学習活動やまちづくりに寄与するだけでなく、各博物館の生き残り戦略の一つでもあります。

県内の博物館広域連携はいくつかあり活発な活動をしていますが、私には美術系をベースにした観光客主体との印象があります。しかし、この藩領ミュージアムは先ずは住民が主体で、表層的なことがらよりも基層的なことがらを学べる博物館相互連携事業です。住民がこの地方の文化資源＝観光資源にふれて学び、楽しむことでスポットを当てれば、その営みが観光客にも波及し、足を運ぶことになるのでしょう。

2　松本藩領の移り変わり

松本藩は最後の藩主戸田氏の石高を代表して 6 万石と言われます。しかし、じつは江戸時代のなかでも所領の移り変わりによって石高も変わっています。

松本藩領は、江戸時代の初めは筑摩郡（松本市・塩尻市・東筑摩郡）と安曇郡（安曇野市・大町市・北安曇郡）の 2 郡を合わせた範囲とほとんど一致し、225 か村で石高は 8 万石でした。安曇郡はほぼ初めの範囲で明治を迎えていますが、筑摩郡は元和 3 年（1617）以降に、幕府領・高島藩領・高遠藩領といった所領の支配を受けることになりました（図 1）。この年、小笠原忠真は松本から明石に移り、戸田康長が藩主となりました。小笠原氏は 8 万石、戸田氏は 7 万石でしたから、その差の 1 万石は翌 4 年に諏訪・高遠両藩に 5 千石ずつ分け与えられ、現松本市神田から塩尻市片丘にかけての一帯が諏訪藩領、いわゆる「東五千石」の村々となっています。このとき、藩領境は千鹿頭山の尾根を通ることになり、尾根の北側が松本藩領、南側が諏訪藩領と定められました。

3　伝承された生活文化

では、松本藩の風土のなかで培われ、伝承された生活文化についてもう少しふれてみましょう。

先にふれたあめ市が開かれることをはじめ、昨今は祭日が一定ではありませんが、小正月の火祭りをサンクロウと呼ぶ、サンクロウと呼ぶ焼く物をつくる・神札を配

図2　七夕人形が飾られる範囲など（参考文献1所収）

る、七夕のときに七夕人形と呼ぶ人形を飾るなどの事象は、松本藩領だけに限られていることがわかります（図2）。あめ市の開催場所や七夕人形を飾る地域の分布をみると、善光寺街道や千国街道などの街道が大きな役割を果たしたのでしょう。松本城下町から周縁・周辺へ、周辺・周縁から松本城下町へ、街道は人が歩き物資が運ばれただけではなく、文化事象をも伝えたのでしょう。そう言えば、ここでは直接関係はありませんが、松本のマチの女の子の行事・ぼんぼんは、江戸から街道を沿って松本にもたらされたといわれます。

4　活動事例から

先ず、平成26年度からの活動に少しふれてみましょう。

26年度は各博物館に活動状況などを照会し、その結果に基づき、博物館や国・県指定文化財の所在を示した「松本藩領ミュージアムマップ」を作成、頒布しました。そのマップには「筑摩、安曇のふたつの郡　松本藩領は屋根のない博物館」とうたってあります。このマップはおかげ様で品切れとなり現在は増刷して配布しています。

27年度は博物館の連携や藩領の交流を市民と考え、学ぶため講演会と座談会を2回開催しました。

初回は安曇野市豊科郷土博物館館長の百瀬新治さんから「安曇野市域の文化と博物館活動」と題して講演いただきました。松本の博物館のウィークポイントでもある若年層開拓に向けた取り組みや、各博物館が連携して同一テーマで調査研究から展示を行うなどの藩領ミュージアム推進の意義にふれられました。座談会では山形村の方から「水」をテーマに協働研究をとの意見がありましたので、今後取り組みたいと思います。豊科郷土博物館とはすでに平成25年に「よろず願いごと引き受けます―道祖神展」開催時に、市立博物館で松本市域の特色ある道祖神の写真をタイアップ展示し、27年は考古博物館でタイアップ企画を行い、それぞれ安曇野市民の皆さんが来館され熱心に見学していただきました。

講演中の百瀬館長（平成28年3月19日）

2回目は元塩尻市立平出博物館館長の小林康男さんから「考古学が語る交流」と題して講演いただきました。縄文時代の土器・石材・土偶をはじめ、弥生時代や古代の陶工たちの交流の範囲は近現代の行政区画などよりずっと広範囲であったこと、ヒスイを事例とした松本地方の西山山麓ルート、東山山麓ルートなどについてふれられました。塩尻市立平出博物館との連携は以前から行っており、近年では25年秋に「田川流域の原始・古代　祈りの世界」というテーマのもと平出博物館と考古博物館の両館で企画展を開きました。このときはたまたま、市立博物館でも「発掘された日本列島2013」を開催中でした。塩尻から松本へ、松本から塩尻へと人の動きもあり、松本平が考古の秋として少し熱くなったことを思い出します。

講演中の小林元館長（平成28年3月26日）

おわりに

松本藩領というと、私などはどうしても近世以降の交流や文化の醸成が頭に浮かびます。しかし、先にふれた百瀬、小林両講師の講演内容からも、この地域一帯の文化事象は、古い時代から先人たちの営みや交流の積み重ねがあったということがわかります。私は、今後この松本藩領ミュージアム事業のなかで博物館の相互連携を進めることで、松本藩領ブランドを見つけることができると思います。ブランドとは、長い歴史の中で醸成された地域の文化・伝統であるといいますから、これらを市民とともに検証し、次代に伝えることが、松本藩領ミュージアムの大きなミッションの一つとなるのではないでしょうか。

（松本市立博物館　館長／窪田雅之）

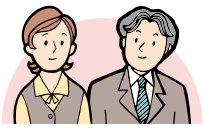
参考文献
1　倉石あつ子　「七夕人形」（『長野県史民俗編第5巻総説Ⅱさまざまな暮らし』）　平成3年
2　拙稿　「松本まるごと博物館の"まちづくり"」（『地域づくり再考-地方創生の可能性を探る』松本大学出版会）　平成28年

ひとの動き

4月1日付で、次のように職員の転入・転出等がありました。（　）内は所属。

転入・新規採用　よろしくお願いします。

課長補佐	遠藤　彰	（鎌田地区地域づくりセンター→旧制高等学校記念館）
主　査	澤柳　秀利	（松本城管理事務所→山と自然博物館）
主　査	赤羽　裕幸	（保険課→考古博物館）
主　事	堀井　亮彦	（保育課→博物館）
事務員	小暮　洋介	（新規採用　博物館）
嘱　託	宮下　智昭	（梓川公民館→博物館）
嘱　託	吉田　花菜	（博物館）
嘱　託	栗原　信行	（議会事務局→旧開智学校）
嘱　託	勝野　恒彦	（本郷小学校→窪田空穂記念館）
嘱　託	清澤　一正	（障害・生活支援課→馬場家住宅）
嘱　託	内城　秀典	（文化財課→歴史の里）
嘱　託	浅村　晋	（里山辺地区地域づくりセンター→時計博物館）



課内異動　改めてお願いします。

課　長	関沢　聡	（課長補佐→事業担当課長）
主　事	千賀　康孝	（考古博物館→歴史の里）
嘱　託	保坂　佳子	（博物館事務→博物館受付）
嘱　託	松本　和子	（松本民芸館→旧開智学校）
嘱　託	栗木　文子	（旧開智学校→松本民芸館）

退職・転出　お世話になりました。

課長補佐	臼井　邦彦	（旧制高等学校記念館→文化財課）
主　査	小原　稔	（山と自然博物館→安曇公民館）
主　任	草間　厚伸	（博物館→生涯学習課）
主　事	宮井　博樹	（歴史の里→生涯学習課）
嘱　託	長尾小百合	（博物館→退職）
嘱　託	佐藤　綾美	（博物館→退職）
嘱　託	小穴　定利	（旧開智学校→退職）
嘱　託	福澤　昭司	（窪田空穂記念館→退職）
嘱　託	鳥羽　清次	（馬場家住宅→退職）
嘱　託	古田　善雄	（歴史の里→退職）
嘱　託	青木とう香	（時計博物館→退職）

ガイドコーナー　はんてんぼく

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第 53 回あがた美術会作品展

旧制松本高校 OB による絵画を中心とした作品展です。

会　期　5月21日(土)～6月12日(日)
会　場　旧制高等学校記念館1階ギャラリー
料　金　無料(常設展は通常観覧料)
問合せ　旧制高等学校記念館へ

濱徳太郎と『春寂寥(はるせきりょう)』—うけつがれる松高寮歌—信州大学附属図書館展

会　期　5月14日(土)～23日(月)
会　場　信州大学附属図書館 中央図書館 展示コーナー
料　金　無料(カウンターで要入館手続き)
問合せ　旧制高等学校記念館へ

歴史の里から ☎0263-47-4515

①はた織り体験、②草木染め体験、③みすず細工体験

日　時　①5月25日(水)
　　午前10時～正午、午後1時～午後3時
　　②5月29日(日)午後1時～午後4時
　　③6月4日(土)午前9時30分～正午
会　場　歴史の里
料　金　①③1,000円、②2,000円
対　象　大人
定　員　①午前、午後とも各5人、②③各10人
申込み　電話で歴史の里へ

親子はた織り体験

日　時　6月25日(土)
　　午前10時～正午、午後1時～午後3時
会　場　歴史の里
料　金　1,000円
対　象　小学生以上の親子
定　員　午前、午後とも各5組
申込み　電話で歴史の里へ

松本民芸館から ☎0263-33-1569

講演会「信州とバーナード・リーチ」

日　時　5月15日(日)午後1時30分～午後3時
会　場　松本民芸館
料　金　通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)
定　員　30人(要予約)
申込み　電話で松本民芸館へ

緑陰「用の美」市

会　期　5月28日(土)～30日(月)
会　場　松本民芸館

布ぞうり作り

日　時　6月19日(日)午前10時～午後3時
会　場　松本民芸館
料　金　1,500円(材料費)
対　象　小学校高学年以上
定　員　15人
持ち物　昼食・はさみ
申込み　電話で松本民芸館へ

時計博物館から ☎0263-36-0969

時の記念日企画展「時計博物館 収蔵品展 2016」

会　期　5月21日(土)～6月19日(日)
会　場　時計博物館
料　金　通常観覧料(大人300円、小・中学生150円)

時の記念日企画展　古時計説明会

日　時　6月11日(土)、12日(日)
　　両日とも午前11時20分と午後2時20分から
会　場　時計博物館3階企画展示室
料　金　通常観覧料(大人300円、小・中学生150円)
その他　予約不要

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

はた織り体験教室

①裂織(さきおり)体験教室
②高機(たかはた)入門教室(全6回)

日　時　①5月21日(土)
　　午前9時30分～午前11時30分
　　②5月21日、6月18日、7月16日、8月20日、
　　9月17日、10月15日(土)
　　午後1時30分～午後4時
会　場　馬場家住宅南門長屋
料　金　①1,000円、②6,000円
対　象　①小学生以上(初心者)
　　②6回続けて参加可能な方(経験者)
定　員　各4人
申込み　5月6日(金)から電話で重文馬場家住宅へ

お茶席の会

日　時　5月8日(日)午前10時～正午
　　担当:おしゃれ茶道の会/裏千家
　　6月26日(日)午前10時～正午
　　担当: 松風の会/表千家
会　場　馬場家住宅主屋
料　金　通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)
問合せ　重文馬場家住宅へ

考古博物館から ☎0263-86-4710

弓矢づくり講座

日　時　5月7日(土)、21日(土)
　　両日とも午前10時～正午、同内容
会　場　考古博物館(隣の古代公園で飛ばします)
料　金　300円
対　象　小学生以上(小学校低学年は保護者の付添要)
定　員　各20人
持ち物　昼食・はさみ
申込み　電話で考古博物館へ

あとがき

4年ぶりに山と自然博物館に戻ってきました。アルプス公園の桜の開花が、当時よりも2週間近く早くなり、地球温暖化の影響があるのかな、とも感じます。人は、自然なくしては生きられません。山からの景色を眺めながら自然のありがたさを感じています。　(H.S)

あなたと博物館 No.204
発行年月日/平成28年5月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL：http://www.matsu-haku.com
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp
印刷　川越印刷株式会社